

ネパール大地震と映画「ビリギャル」に思うこと

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今日は、2つのことをお話させていただきます。先日、ネパールで大地震が発生しました。開倫塾の社員のお二人がネパール出身です。そこで、12日・火曜日に行われた社員の方々140名ほどが集まる大きな会議で、「ネパール大地震激励会—がんばれネパール、We support Nepal、we live together—」をさせていただきました。

2. お聞きしたところ、地震が発生したときに、ネパール出身の社員の方の一人が、たまたまパスポート更新のためにカトマンズにある実家に帰っていたそうです。その実家が崩れて電気や水の供給が止まってしまい、また、近くの学校の半分以上が壊れてしまったということでした。報道によると、ネパール全体では半分ぐらいの学校が壊れたということですが、もしかしたらもっと多かったのではないかと心配していらっしやいました。

また、もう一人の方からは、いろいろな国からの支援物資がなかなか被災者のもとに届かないという状況があるので、確実に届くように改善を促したいという話をお聞きました。とにかく、非常に心配な状況が続いているようです。

3. 二人のお話をお聞きしたあと、約140名の社員の皆さんで色紙に励ましの言葉を書いたり、黙とうをささげたりさせていただきました。また、今後の支援として募金活動を始めたり、子どもたちの教育支援のために文房具を送ったりしたいという旨のお話もさせていただきました。

2回目の地震も発生しましたので、放送をお聴きの皆様にも、ネパールの復興に向けてのご協力をお願いしたいと思います。

4. 日本で起きた東日本大震災も大変な状況でしたが、今回のネパールの大地震はそれにも増して大変なようですので、日本は国を挙げて支援をしたほうがよいのではないかと考えます。どうかよろしくお願い致します。これが、1つ目のお話です。

5. 2つ目は、映画のお話です。先日たまたま時間がありましたので、今とても話題になっている「ビリギャル」を観てきました。「ビリギャル」という言葉を耳にした人も、その映画を観た人もたくさんいらっしゃると思いますが、学校の成績があまり芳しくなかったギャル・学年でビリの女子高生が1年間で30だった偏差値を40も上げて70にし、なんと慶應大学に現役で合格したお話です。

6. ビリギャルは、家庭が大変な状況だったのですが、お母様の教えがあっって、またお母様に連れら

れて行った学習塾の先生が非常に熱心に指導して下さったこともあって、さらに、本人の努力もあって、1年間で偏差値を30から70まで上げて慶應大学に現役合格を果たしました。

7. この映画は東宝系列の映画館で5月1日に封切りになり、5月11日までに100万人以上の方々鑑賞しました。邦画No.1ということですので、放送をお聴きの皆様の中にもご覧になった方がたくさんいらっしゃると思います。本当によい映画です。

8. この映画は、よく観ると教育映画だと思います。本人も頑張る、お母様も頑張る、お友達も応援する、学校の先生も学習塾の先生も励ます、それらがあって不可能と思われることを可能にしたというサクセス・ストーリーを描いた素晴らしい教育映画と言えます。

9. 原作は、坪田信貴さんという学習塾の先生が書かれた実話です。坪田塾は名古屋にある学習塾で、坪田先生が実際に教えた女子高校生のことを本にまとめたのが「ビリギャル」です。これはKADOKAWAから出ています。私は、この本を2冊買いました。最初に出たのは2013年12月27日ですから、約1年半前です。次は、映画に合わせて、今年の4月10日にKADOKAWAから文庫本として出ました。これは、1冊目の厚めの本のストーリーだけをまとめて読みやすくしたものです。

10. 皆様もぜひお読みになり、成績が不振で学年でビリだったお子さんが家族・学校と塾の先生・友達の支援や励ましを受けて、どのようにして偏差値を1年間で40も上げていったのかを知り、自分のこととして考えていただきたいと思います。映画と本を2つ合わせるとよくわかります。

11. では、どのように勉強したのかを少し紹介します。日本史は、学校の教科書は漢字が難しくで大変なので、「マンガ日本史シリーズ」で勉強しました。何十冊もありますが、1回だけではなく、週末ごとに4回も読むというハードな勉強を続けました。英語は、高校3年生でしたが、中学1年生の教科書から始めて3年間の内容をすべて復習し、それから高校の内容をじっくりじっくり、また、繰り返し繰り返し学びました。加えて、辞書もよく引きました。

12. この女子高校生は、慶應大学の文学部を希望しました。この学部の受験科目は社会1科目と英語と論文でしたので、社会と英語は前述の方法で勉強しました。論文については、新聞や現代用語の基礎知識などを読んで対応できるようにしました。

ただ、知っていることばの数、つまり語彙数があまりにも少なかったため、先生の指導で、辞書をよく引き、「羅生門」「人間失格」「蟹工船」などの有名な本を毎月1冊ずつ丁寧に丁寧に読みました。そして、日本語のことばの数を増やし、社会背景なども押さえて、慶應大学総合政策学部合格を勝ち得ました。加えて、明治大学と関西の大学にも合格しました。とてもとても努力をした方ですので、「ビリギャル」という映画を観たり、本を読んだりして、参考にさせていただきたいと思います。